



SPN サービス終了について

June 2024



サービス終了の理由

- SPNはLoRaWANの古いVersion（1.0.2）しかサポートをしておりません。テクノロジーが日々進化する中でセキュリティの脆弱性の低いVersionを使用し続けますか？
- Kerlinkは2023年夏よりLoRaWANゲートウェイ専門メーカーとしてお客様により便利にLoRaWANエコシステムを使用していただくために日々努力しています。
 - そのため従来のKerlink SPNを廃止し、より専門性の高いActility社TAO、Chirpstack組込型LNSを導入することとなりました。

SPNから移行するメリット 1/2

- 最新のLoRaWAN仕様（1.0.1から1.0.4まで、Chirpstackは1.1.0まで）とRegionalパラメータ仕様に準拠している
- 新しいLoRaWANデバイスをネットワークに追加/統合するのが非常に簡単になります。
- 最新の仕様に従っているため、お客様が長年要望していたMACコマンドをサポートすることが出来る
- ChirpstackとTAOは、SPNよりも多くのLoRaWAN Regionをサポートしています。
- アプリケーションサーバーへのインターフェースが増えている。
(MQTT、HTTP、Websocket、Modbus、BACNet、PostgreSQL、Azure Service-Bus、Azure IoT Hub、AWS SNS、LoRa Cloud (Semtech)、Node-RED...など)
- Node-Redの最新版への対応も可能となりました。
(SPNで使用していたのは非常に古いVersionでした。)
 - 既存でNode-Redをご利用されている場合、フローをコピー・ペーストし、1つか2つのノードを修正するだけで統合が完了します！

SPNから移行するメリット 2/2

- ChirpstackとTAOでも、SPNと同様にマルチゲートウェイ機能（マスター・スレーブ・ネットワーク構成）を使用することが出来ます。
- ChirpstackとTAOは、SPNとは異なり、専門のソフトウェア・チームによって最新の状態に維持されています。
- ChirpstackとTAOの両方は、お客様が“Maintain”サービスにご加入頂くことによりWanasy Cockpitダッシュボードでゲートウェイを遠隔監視することが可能です。
- ChirpstackとTAOの両方は、最新のKerOSバージョン対応です。

サポートについて

- ChirpstackとTAOに関する代理店様とお客様からの質問には、SPN同様に弊社が回答していきます。ご安心ください。
 - 主な違いは、ドキュメントのほとんどが、Kerlink wikiだけでなく、ChirpstackとActilityのウェブサイトで公開されていることです。
 - ハードウェアの永久保証サービスについては、いかなる問題に対しても有効です。

SPN終了で他社制GWを検討されているお客様へ

- SPNとActility TAO、Chirpstackは全くの別物ではありません。
 - セキュリティ面の向上と便利な新機能が追加された**SPN**の進化版です。
- そのほかにも・・・
 - ハードウェアの永久保証は弊社のみです。
 - 弊社の**GW**の故障率は非常に低い値です。
 - 他社製品を購入してもアプリケーションへの統合は必要です。
 - カーリンクは日本に拠点を置き、お客様へのサポートを迅速に対応しております。必要であればお客様の元へお伺いも可能です。

k.halopeau@kerlink.com
k.saeki@kerlink.com



www.kerlink.com



kerlink



@kerlink_news



kerlink